19）グレート・オーモンド・ストリート小児病院の設立について

The Establishment of the Great Ormond Street Hospital for Sick Children

東京都新宿区　柳澤波香

Namika YANAGISAWA

グレイト・オーモンド・ストリート小児病院(Great Ormond Street Hospital for Sick Children）は，1852年，内科医チャールズ・ウエスト(Charles West)らにより，ロンドンの病める子供達を対象として設立されたイングランド初の小児病院である．イングランドでは18世紀以降，ヴォランタリ・ホスピタル（voluntary hospital）の設立が相次ぎ，19世紀に入ると専門特化型ヴォランタリ・ホスピタルが数多く設立されたが，小児病院の設立は，その中においても，またヨーロッパ諸国における小児病院設立の年と比較しても決して早いものではなかった．

19世紀に至るまで子供のhospitalisationとはfoundling hospital（捨子養育院）に収容されることを意味した．そこで病気になれば看病は受けるが適切な医療が施される場ではなかった．また子供を一般病院へ入院させることは，母親と隔離することになるので情操上好ましくないという意見が根強かったため，子供の入院は極めて少なかった．ロンドンのSt Bartholomew's病院では母親が病院で亡くなったときのみ，その子が7歳に達するまで病院に「収容」した．

子供の病気の手当は年長婦人などの知恵に頼る傾向があり，手遅れとなるケースも多かった．そこで，ヨーロッパ大陸では19世紀に入ると，パリ(1802年)，ウィーン(1837年)，ブダペスト(1839年)，プラハ(1842年)，ベルリン及びトリノ(1843年)，コペンハーゲン(1845年)など各地で小児専門病院が相次いで設立された．

ロンドンでは，18世紀後半にアームストロング医師が『子供のための診療所』を設立，またチャールズ・ウエスト医師自らも『子供と婦人のための診療所』を当時開設してはいたが，これらは入院設備を有するものではなかった．イングランド各地で小児病院が建設され始めるのは19世紀後半以降であり，イングランドの小児病院はヨーロッパの中では後発であったといえる．これは当時のイングランド社会が産業資本主義の絶頂にあったことと関係が深い．児童は安い労働力として劣悪な環境で長時間酷使されていた．1844年には工場法が制定されて児童労働者の雇用に一定の制限が設けられたが，子供を取り巻く医学的環境に関しては19世紀後半に至るまで殆ど配慮されることもなく，殊に下層階級の子供の窮状は苛酷を極めた．

このような状況の中，ウエスト医師らがヨーロッパ大陸の小児病院を視察，イングランドにも小児病院の設立が必要であると認識した．1852年，医師と医師以外の篤志家の支援を得て，ロンドンのGreat Ormond Street 49番地に，ベッド数10床の小児病院(Great Ormond Street Hospital for Sick Children，以下GOSHと称す）が設立された．当時の子供達が置かれている厳しい現実を小説の中で描いた文豪ディケンズはGOSHの有力な支援者で，その呼びかけにより貧しく病める子供への世間の同情心から寄付金が多く寄せられた．

設立から20数年間は病床数および看護上の事由から入院は2歳以上12歳以下の慢性及び急性疾患の患児に限定され，2歳未満の患児は外来診療のみとされた．子供には外科的処置ではなく内科的処置を施すべきであるという医師の考えから手術は当時行なわれなかった．面会は感染を危惧したため制限，或いは完全に禁止されていた．GOSHでは子供の疾病に関する治療の他，当初から診療方針の一環として母親への助言が行なわれた．

1870年代に入ると，病床数が120床へと増加し，2歳未満の患児も入院が可能となった．また消毒及び麻酔の技術の向上により小児に対しても手術が行なわれるようになり1890年にはoperating theatreが完成した．GOSHは設立時より，医学生に小児疾患の知識を習得させる機関としての役割もあり，教育病院としての小児病院には症例も多く集まり小児科学の確立に貢献した．

イングランド各地では1860年代から1880年代にかけて小児病院が次々に設立され，子供を取り巻く環境は社会的，医学的に変容していった．